

## 「明日の地域福祉を考えよう！」

～八王子市第 7 期介護保険事業計画のゆくえ～

平成 29 年 9 月 24 日（日）14:00～16:30 於八王子市子安市民センター会議室

主催：八王子市民活動協議会（地域ネット実行委員会） 共催：八王子自治研究センター 後援：八王子市

### 主催者挨拶（14：00）

・八王子市民活動協議会 理事長 石井利一

八王子市民活動協議会は中間支援団体として八王子地域の市民活動団体のバックアップと市民の市民活動参画支援をミッションとしています。今回のシンポジウムは WAM 助成（社会福祉振興助成事業）で実施しています。平成 26 年厚労省は大きな政策転換をしました。平成 27 年から 29 年の 3 年間で要支援 1 と 2 と介護予防の分野は各市町村に管理が移管されました。八王子市民活動協議会はこうした分野で活動している団体を支援し、地域包括支援センター・民生委員・町会自治会役員・議員・行政に普及して頂くために「生き生きハンドブック」を作り、シンポジウムを開催しております。真摯なご意見を賜りたいと思います。

・来賓挨拶 八王子市医師会 数井 学

八王子市医師会の在宅医療を担当しております数井です。八王子市医師会としても地域福祉活動と共になければならないと感じています。訪問診療には存続条件があります。訪問先で対象となる方達の生活支援は介護関係者です。介護関係者がいなくなるのは総合事業に絡んできます。ヘルパーさん自身も高齢化しており深刻な問題になってきています。地域の方達と助け合っていかなければならないと思っています。医師会としても地域に深く浸透していくために「地域相談窓口」を開設しました。電話をかけて頂ければ連携してお応えできる体制です。

### 第 1 部 基調講演 講師 八王子市福祉部高齢者いきいき課長 元木 博

配布資料「活動からみえる地域に必要なサービス」

【八王子市「高齢者計画・第 7 期介護給付事業計画」の論点】

「八王子市社会福祉審議会 高齢者福祉専門部分科会 第 7 期高齢者計画・介護保険事業計画策定部会」の状況をお伝えできればと思います。お話しする内容は八王子市として決定しているものではないことをご承知下さい。

【2025 年を見据えた計画の策定】

第 6 期計画は「八王子版地域包括ケアシステムの基礎づくり」です。第 7 期計画は広がりある事業展開です。

【改めて地域包括ケアシステムとは】

地域包括ケアシステムとは「予防・介護・医療・生活支援・住まい」を一体的・継続的に提供する仕組みです。八王子市は医師会・介護・自治会は比較優位にあります。皆様ご存知でしょうか。

【重点的な議論の項目（案）】

重点的な論点は(1)地域包括ケアシステムの強化 (2)市民力・地域力を生かした多様な取組の推進 (3)介護人材の確保・定着・育成 (4)認知症施策の推進 (5)医療と介護の多様な職種による連携推進の 5 つですが、計画としては施設整備やサービス見込み量と保険料の設定があります。

【地域包括ケアシステムの強化】

地域・医療・介護の協力が欠かせません。若い世帯にも何とかしてアクションが起こせないものか。退職直前の勤労者にも至近感と安心感を持って貰えるか、これが地域包括ケアシステム普及のポイントだと思います。多様な主体の連携・協働についても手を打っていきたくと思っています。八王子の地域包括ケアシステムの立ち位置が分りにくい。皆様に伺いながら進めていきたくと思っています。

### 【市民力・地域力を活かした多様な取組の推進】

#### (1) 原動力となる人材・活動グループの確保・育成

課題は深刻でシニアクラブでも町会自治会でも高齢化が進んでなり手がいない。何をすれば皆さんに届くのか、お知恵をお借りしないと若い世帯には通用しません。

#### (2) いつまでも元気で自分らしく活躍できる場の創出 (3) 地域を市民力・地域力で支えるしくみづくり

一番深刻なのは就労です。シルバー人材センターの生きがい就労がありますが、生活困難者や元気だけれども職がないのは大変な社会的損失です。雇用政策や就労政策は国都道府県レベルの問題ではあるが自治体でも考えるべきである。今回は介護人材の確保でしたが今回は就労かなあと 생각합니다。

### 【介護人材の確保・定着・育成】

人が足りないのは皆様に定着しており「介護人材の確保育成」で進めて参ります。

### 【認知症施策の推進】

八王子市は認知症サポーター研修の受講率が高い。認知症施策は草の根的に実施すべく市民のご協力を頂きたい。重要なのは予防措置と医療介護の連携と家族介護者の支援です。特に家族介護者サポートが重要になってきます。

### 【医療と介護の多様な職種による連携推進】

医療と介護の連携は医師会を中心に可成り進んでいます。多職種連携を医師会に伺いながら促進していきます。在宅医療相談窓口や多職種連携について折角できたのに、市民の皆さんが知らないのは大変勿体ないことです。行政は側面での周知に努めます。多職種連携についても行政にできることを探して実施して参ります。

### 【これからの議題（計画担当課の問題意識）】

次回計画策定部会の課題は介護予防です。毎日体操をし、早寝早起き腹八分、いろんなものを食べましょうです。どうやったらやってくれるか…やろうと思っている人しかやりません。ウォーキングや園芸等エビデンスが大切です。市のお金を使う場合その効果を結構吟味しなければならない。トライアルをしつつ調査をしなければなりません。学術研究もあるが市には特別なものがある訳ではありません。八王子市の介護予防・日常生活支援総合事業は可成り進んでおります。今後他市の事例も参考に施行と改善の「前向きな繰り返し」を続けていきます。

### 【おわりに～計画の運用について】

新総合事業計画運用に重点項目を決めていません。市民力・地域力を活かした多様な取組とオーバーラップしており、最終的には「市民力・地域力に収斂していく」と思われるからです。市民力・地域力では見守り講座とか高齢者向けの学習支援・ふれあい喫茶シニアクラブ支援・シルバーサポーター派遣事業等実施推進していきます。介護保険計画を3年毎に作る目的は介護保険料枠があるからです。先食いでいいしその逆もない。世帯間の公平化を斟酌し、できるだけ柔軟に対応していきます。訪問Dは絶対に取り組まなければならない事業です。決まらないけれど検討会を立ち上げていくような場合があります。ご質問ご意見ありましたら伺いたい。

## 第2部 市民団体活動報告 コーディネーター 桜美林大学 島津 淳 氏

5団体から市民団体活動報告があった。助け合い(①～④)と移動支援団体⑤は以下の通りであった。

- ① 特殊非営利活動法人 めじろむつみクラブ 事務局長 東 隆夫氏
- ② 絹一丁目自治会 絹一ふれあいネットクラブ 事務局長 野浦 徹氏
- ③ きよぴー(清川ハッピーステーション) 事務局長 片貝 剛氏
- ④ 特殊非営利活動法人 長寿者を考える会 まごころケア責任者 上田則子氏
- ⑤ 特殊非営利活動法人 ハンディキャブゆづり葉 理事長 杉本依子氏

(1) 助け合い団体(①～④)報告は省略。詳細は配布資料「明日の地域福祉を考えよう!」～八王子市第7期介護保険事業計画のゆくえ～を参照。①②③はPRビデオ(3分間)の上映があった。

(2) 移動支援団体⑤報告は下記の通り。詳細は配布資料「活動絡から見える地域に必要なサービス」及びパンフレット「ハンディキャブゆづり葉」「自立支援さぼたま」を参照。

### 【ハンディキャブゆづり葉の結成】

障害者や介護者は移動支援には困り切っており、同じ悩みを持つお母さん達 12 名が介護者の負担軽減のために「移動サービス支援」を始めました。「市民による市民のための自立支援事業を行ない、一人では外出困難な方がいきいきと元気に生活できる福祉のまちづくりをする」のがミッションです。

### 【主な事業内容】

「生活・介護支援サポーター養成研修」による外出困難者の移動支援のための人材育成事業です。「いきいきお出掛けサポート事業」は多摩市と包括支援センターと認知症グループホームが連携し始めたツアー支援事業です。「おでかけ・くらしサポートセンター多摩“さぼたま”」は移動機能相談を目的の事業で福祉情報提供・お出かけサロン・各種福祉情報の受発信事業でタクシー事業者等とのコーディネートもします。

### 【その他の事業】

「まるっと協議体」事業は地域との協議体事業です。メンバーは NPO や民生委員・自治会・事業者・医師会長他 17 名で構成されています。助け合い活動とはどんなものか等の勉強会や介護保険制度改正市民説明会寸劇やさわやか財団共催の地域ワークショップ等も実施しました。第 2 層コミュニティーエリアの資源の見える化をしました。ワークショップでは地域で解決案が出なかった課題（移動販売・移動支援・集まる場・支え合いがつかれない）を第 1 層で検討することになりました。目下第 7 期に向かって要支援 1・2 の資料作りをしています。

## 第 3 部 総合ディスカッション コーディネーター・全体まとめ 桜美林大学教授 島津 淳 氏

島津；これからディスカッションに入ります。その前に地域包括ケアシステム構築に向けた制度及びサービスのあり方についての研究会報告を紹介します。詳細は配布資料活動からみえる地域で必要なサービス」地域包括ケア研究会「2040 年に向けた挑戦（概要版）」参照。皆様は 1 次予防＝社会参加する・2 次予防＝虚弱を遅らせる・3 次予防＝重度化を遅らせる についてはご存知のことと思います。今、国からも一つの予防として 0 次予防＝地域で繋がることによって虚弱化や重度化を遅らせることができるが提起されています(4 頁参照) 新総合事業でゼロ次予防に向けた地域環境・社会環境整備・改善が重要です。報告以上です。補足説明どうぞ。杉本；新総合事業の中で生活支援コーディネーターと移動支援について行政の意見を伺いたい。

元木；生活支援コーディネーターは地域資源を開拓・開発し、地域の課題を把握して活躍を促すのが役割です。協議体はその課題を取り纏める組織体で、生活支援コーディネーターは 1 層・2 層・3 層に配置されます。移動支援は各層の課題になります。

島津；地域包括支援センターの方に 1 層・2 層・3 層の動きについて伺いたい。

堀間；地域のサロンを大学と連携して運営しており、生活支援コーディネーターに入って頂いております。

島津；補足説明は以上とします。続いて質問を受け付けます。

吉永；福祉は逼迫しており「我がこと丸ごと」福祉だけでなく全分野全世帯対象に生活全般を見直ししなければ追いつきません。地域包括ケアシステムの仕組を完成させることを通して全体で取り組まなければならない。市民活動協議会は発足以来このことに携わってきていることを評価して頂きたい。アクティブ市民塾・オトパ・志民塾・各種ワークショップを積み重ねてきている点を評価し活用して頂きたい。

元木；そろそろ協働の考え方を見直さなければなりません。行政が抱える危機意識もお伝えし社会全体の協働を考えるべきと個人的には考えています。行政内の協働については横断的な課題が増えている中で隙間になっている課題が増えてきています。介護ロボットをどうするか、どこの所管がやるのですかという問題です。引き続きご指摘を頂きながら推進していきます。ご理解下さい。

杉本；多摩市は体制整備事業と介護予防の生活支援が始まった時、健康街づくり推進室長が高齢福祉や障害者や子育て支援を横断的に調整できたのではないかと感じています。市の方でそろそろ横断を刺さないと包括ケアは実現には向かないと思います。2025 年にニュータウンにとんでもないことが起こると感じています。少なくとも包括ケアに目が向いていると感じています。

島津；自治会のあり方が問われちゃっていますが、厚労省「我がこと丸ごと地域力強化分科会」座長の川田正樹先生は、国は「我がこと丸ごと」地域丸投げではないか…と本音を漏らしていました。次、質問どうぞ…。

大河原；高尾自然博物館に携わっております。国も力がなくなっており、行政丸投げになっていると伺いました。一人ひとりが自己責任で生きていかなければならない厳しい時代になったかなあ…と感じています。地域力を活かし模範的な高齢化対策を如何にして作っていくか、地域と行政が力を合わせない点が目に見えています。自治会活動に高齢者問題を取り上げていく行政指導や人間性を無視した要支援施策に対するボランティアや行政が補足していく仕組みが必要と感じます。災害時の避難や災害補償についても地域福祉の中で考えて欲しい。八王子市でも縦割り政策にそろそろ横串を刺して貰いたい。

元木；自治会運営に任期の枠を被せるのは行政として厳しい。任意であることを盛り立てていくしか方法はない。要支援切り（そういう言い方をしてはいけませんね）は厳しい面を何とかしなければならぬ面があります。大元は国でもあり市民でもあり自治体でもありますので折り合うところで何とかしなければなりませんので、一緒に考えて頂きたいというのが本音です。取組は市民との協働にあり、行政は再評価しなければなりません。災害時の生活補償ですが、原発の件もあり一概にお答えできません。在宅で震災が起こった時家の補償をどうするか、倒壊しないように補修しましょうか、倒壊しなかったが家が崩れそうだからどうするか。福祉避難所は要支援とか、障害をお持ちの方とか、日頃ケアしなければならぬ方が中心になっています。相談頂ければお知らせはできます。もっとオープンにはしたいと思っています。地域の方は要支援者を如何に移動支援するか…ご意見を寄せて頂きたくか議論致したい。お見捨てなく宜しくお願い致します。

井上；とうゆう会の井上です。柚木地区の老人クラブ 77 名の会長です。助け合い活動が有償の場合基準は何か片貝；基本的に無償です。有償にすると賃金を払うから経費が掛かります。地域活動は会社じゃないから楽しくなければ来ません。楽しくということは無駄なロスを置くということです。来るのが楽しいから続いています。ポイント制度をやった時も不満が露出し止めました。それでも 120 人以上の人が 10 年以上続いている訳です。

東；めじろむつみクラブは時間 1000 円とし依頼があれば見積もりに行き確認を取ってから作業をしています。請求金額は実働時間によっており、見積もりと違ってくる場合もある。多い人で月 40 万円位の人もあります。

島津；移動支援について杉本さんからひと言お願いします。（配布資料「総合事業で移動・外出支援を！」参照）杉本；この資料は、全国の移動支援団体が第 7 期介護保険計画の中に移動サービス B を入れて欲しいために作成したパンフレットです。今全国のいろいろなパターン of サービス B を調べています。厚労省からモデルの冊子が出る予定です。全国調査の結果いろんなパターンが展開されています。訪問は ABCD があり B は移動で D に準ずる。通所は ABC があり、看護型通所 A に日当を付けるとか、通所 B サロン型に D 移動を付けるとか、単独で B をやるとか、B の中でプログラムとして D をやるとか、いろんなパターンが全国にはあります。

厚労省と国交省の間を行ったり来たりしておりますが、国交省には中小運送の絡みもありチェックは厳しい。今年は NPO の福祉有償運送団体にも調査を掛けます。福祉有償運送団体は現状で手一杯という団体が非常に多い。この制度では運営費が行政から補助されます。無償（登録不要）で、生活支援の助け合いの中で移動を取り入れることをお薦めしているところです。事故のこともあり、全市（第 1 層協議体等）で話し合ってもらってしっかり学習し安全を担保して徐々に進めていくのが良いと考えます。多摩の場合訪問 A をやらずに B だけをやっています。サポーター養成研修も 2015 年から受託し 130 名のサポーターが誕生しています。養成研修は市全体で協議体等の市民団体が入ったところで学習会をやったり、協議を重ねていくのが良いと思います。

〇〇；行政は「我がこと丸ごと」の役割をしっかりと果たし、私たちの老後を安心して送れるようにして頂きたい。

島津；是非八王子市も市民力・地域力を視点とした多様な取組をお願い致します。

元木；「我がこと丸ごと」を最初に聞いた時は当たり前じゃないかと思いました。第 6 期福祉計画作成担当の時各管理者に確認したことはどこまでを射程にするのかということでした。地域包括ケアシステムは地域共生社会実現のためのシステム・仕組みで、要は支え合いの街づくりです。「我がこと丸ごと」それぞれのシステムを取り纏めたというような物言いになると包括システム推進担当所管はがっかりするのではないかと思います。

今後八王子は「地域共生型社会」の課題を事務処理にちゃんと繋げていき、皆様に伝え、力を合わせていく、そのためにも皆様からご指摘頂きながら進めていくのが筋道と考えます。

島津；有難うございます。これでコーディネーターを終了します。

司会；有難うございました。いろいろな課題を勉強させて頂きました。藤岡様、閉会の挨拶をお願い致します。

#### **閉会挨拶 一般社団法人 八王子自治研究センター長 藤岡一昭 氏**

これからの私共の取組について紹介させて頂いて閉会の挨拶と致します。本日のパネラーの皆さんは昭和 30～40 年代に八王子市が宅地造成した地域に一挙にお住まいになった皆様です。八王子市は 60 万人弱の大変大きな自治体ですが町村合併と宅地造成で形成された多民族国家です。何代にも亘って私は八王子生まれですという方は少数派です。皆さん混じり合っていないと八王子の街づくりはできません。そういう意味で今日は大変参考になる話を一杯頂きました。自治研センターはそのような構造を分析調査し、政策提言するシンクタンクです。八王子市役所も法人で自治研センターの団体会員になって頂いております。将に、言葉と実践で行政と協働して街づくり政策を実現していくのが目標です。今日は移動サービスや担い手の問題が出ていましたが、異世代交流も重視していかなければいけないと痛切に感じました。今日は第 1 回の WAM のシンポジウムです。12 月 3 日 日曜日に第 2 回 WAM のシンポジウムを首都大学キャンパスで同じようなテーマを学生さんたちと一緒に考えていく準備をしているところです。今日の議論や各地域の皆さんが連絡を取り合って、情報共有化とネットワーク化で八王子の街づくりに繋げる方向で今後進めさせて頂きたいということでご挨拶に代えたいと存じます。島津先生、パネラーの皆さん、遠くからお越しの杉本さん、八王子市長代理の元木課長、どうも有難うございました。これからも一緒に議論して、八王子の良い街づくりに向けて共に進んでいければと願ひ、閉会の挨拶と致します。

以 上